

平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100188		
法人名	株式会社・創寿会		
事業所名	グループホーム・ゆりの里		
所在地	宮崎市佐土原町下田島19658－1		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100188&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 12 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のあるべき姿を追求し続けるなか、誰しものが家での生活を継続したいという思いを全職員がくみとり、家での時間をすごしていただくと同様に、束縛されることなく、やさしい時間の流れる第二の家の構築、そして地域に必要とされ続ける施設であるために、携わる職員の資質の向上に妥協することなく、介護者としてあるべき姿に日々研鑽を積み重ね、「すべては利用者様のために」を基本とし、当たり前のことを当たり前に言い、ノーマライゼーションの理念に邁進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者と家族、職員、地域の人々との絆を大切にしておりボランティアの受け入れ、小学生との交流会や、ホーム便りに「認知症について」を掲載し自治会に配布するなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、昼食の食事介助に毎日来訪される家族も居られ、気軽に意見や要望を言ってもらえる雰囲気がある。職員同士のチームワークも良く、利用者はゆったりとした日々を過ごしておられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「ノーマライゼーション精神」の追求を掲示し、その理念のもと利用者様がゆったりとその人らしく過ごせる「第二の家」の構築に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所独自の理念を作り上げている。職員は利用者との日々の関わりの中でケアが理念に活かされているかをミーティング時に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区・斑の方々に「ゆりの里応援団」が増える中行事等の参加を含め住民の方々との場が増しつつある。	散歩時には近隣の人々と挨拶や言葉を交わし、事業所に立ち寄ってもらっている。自治会に加入しており、地域の行事への参加や小学生との交流がある。また、ホーム便りに「認知症について」を掲載し自治会に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に「ゆりの里だより」を発行し、家族・地域に配布し、特に認知症について連載し理解していただけるよう推進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月毎の会議にて、各情報提供中、意見を伺い、そのつど実施に努めている。	会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから意見や要望を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問し、報告事等取り組みを交え挨拶している。	管理者は日頃から市担当課へ出向き事業所の実情などを伝え、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会設置のもと、常々話し合いの場を持ち言葉の拘束を含め、全職員拘束のない支援を行うなか昼間の施錠・開錠の徹底、玄関等の開放を心がけている。	管理者及び職員は施錠をはじめ身体拘束の弊害について認識しており、目配り・気配りしながら利用者の安全を確保しつつ自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会設置のもと、全体会議・ミーティング等で話し合い、言葉の虐待を含め徹底した防止の上取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性に応じ、市町村担当部署と話し合いの場を持ち、研修会等へも機会ある毎に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点を残すことなく、事細かく説明し十分な理解納得がいただけるまで、話し合いの時間を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会含め来所いただく毎、話し合いの時間を持ち、意見要望を伺い、毎月ケア報告時に担当者から連絡の上伺い反映させている。	家族の来訪時には気軽に意見や要望を言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。また、遠方に居られる家族にはホーム便りや個別に利用者の近況を報告している。出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いの場を持ち、面談の際に個別に意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	代表者はミーティングや個別面談において職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境委員会設置のもと、定期的に話し合い平等性のある評価含め、職員が働きやすい職場づくりに妥協を許さず取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質向上の必要性を話し合い、毎月の目標設定の上、研修に年々力を入れ、職場内でも幹部職が特に力を注ぎ実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に会合・会議・勉強会に参加の上交流し訪問の機会も増やしながら、向上に対する策定に力を入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	すでに自己表現力の低下した利用者様でも本人の訴えられるいろいろな話を傾聴し、今おられる内なる世界での思いを、あるがままに受け入れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは入所を決めるまでに至ったご家族の様々な出来事や心情を真摯に受け止め、納得のいくまで相談に来ていただき、相互理解できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける段階で施設でのサービス内容の説明を行い、施設環境を見ていただき、家族や御本人の利用目的に合っているかどうかを、よく見極めていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「人生の大先輩をケアさせていただいている」という気持ちでいる。自分がされてうれしいケアを提供し、笑いや喜びを共有し家族としての関わり、多くを学ぶ努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日常生活の中でのエピソードや気づき特に楽しかったことをお話しし、面会の少ない家族には、電話やお便り・写真などによる近情報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域住民の方々や昔の友人・家族との面会・小規模施設利用者様との交流の場を提供している	地域の行事に出向いたり近くのスーパーに買い物に行く等地域の知人・友人と出会う機会作りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寂しさなどを軽減するため、ホールでの座席などに配慮している。仲良しの関係が築けるように普段から様子を観察し、また居室での語らいができるように職員が環境作りを手伝っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了され他の施設に移られてからも、状況を確認したり、家族がいつでも自由に来られるような関係造りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉によらないその方特有の表情・しぐさ・感情の表現を知り、その行動を制止することなく自由に生活できるように見守っている。	利用者との日々の関わりの中で、声をかけ表情やしぐさなどから本人の意向を把握している。また、本人の視点に立って家族から情報を得て活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人との会話内容や、家族の来訪時に語られた事柄から少しずつ情報を加えながら、これまでの生活・こだわりを知り、大切にしようと努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で排泄リズム・入眠状況・水分や食事摂取量など基本的な観察をしながら、普段に見られない言動に気をつけ、何ができ、何を支援すればよいのか、状況把握に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望と現状を把握し、新たなニーズが発生していないか、日々の申し送りからの情報を取り込みながらカンファレンス等を開き、出来るだけ現状に即した計画を、作成するようにしている。	利用者や家族からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞き、職員全員で意見交換、モニタリングを行い、本人がより良く暮らすための現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの目標や実践必要なサービス内容を記載することで職員が意識してケアができるようにしている。また自分たちのケア内容がふさわしいものであったか、毎日評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能施設と併設のため、集団レクレーションの参加を促したり、年間行事・誕生会行事は合同で実施できるように支援している。また、その日の体調・天候によってレクの変更など臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや民生委員の方とは連携を図りながら施設訪問をしていただいている。また散歩中に隣接する幼稚園などに立ち寄り、地域の方がたと言葉を交わすことで生活感や喜びが得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の同意のもと、利用者様のかかりつけの選択・変更等を行い、主治医とも常に連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。家族とも連携し、家族が同行出来ない時は職員が同行している。	本人・家族が希望するかかりつけ医を支援している。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて支援している。受診結果に関する情報も共有出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細なことでも常に看護師と連携を図り報告・相談し、指示を仰ぎ対応し、経過観察を記録し、利用者様の安全と健康管理に気をつけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には家族や医療関係者との相談・連絡を密にし、互いに情報を提供し合っている。特に退院時にはその後の生活がスムーズに行えるように医療機関からの情報に沿って、慎重に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期への考えや思いを十分収集できるように話し合いの場を設けている。家族や本人の希望が叶えられるように、また事業所でできることを明確化し、互いの方針を共有できるように文書を作成している。	重度化した場合や終末期支援のあり方について意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、全体会議にて勉強会を実施し、救急蘇生等の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を利用者様も全員参加のもと実施している(消防署立会のもと)。また地域住民にも事前にお知らせして参加していただいている。	消防署や地域住民の協力を得て、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「思いは言葉に現れる」ことを常に念頭に入れて、ケアを行うように注意している。特に排泄介助などにおいては、本人の羞恥心への配慮に努め、言語障害のある方がたへはアイコンタクトによって了解を求めて対応している。	職員は利用者を年長者として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。書類等の管理もしっかり行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言葉で表現できない方にも伺いをきちんと行っている。返ってくる表情・手の動き・しぐさなどで確認している。耳の聞こえの悪い人にはゆっくり耳元で話し掛け、応答を得るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本的なことについては、施設での決まった時間帯があるが、それ以外の時間帯においては個々を拘束することなく自由に過ごしていただいている。体調や今日の気分に合わせて可能な限り変更するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の美容師による散髪が行われている。希望によっては外出の散髪に同行している。夜は寝間着に着替え、行事ごと参加や外出時には化粧を施し外出着に着替えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みのメニューを取り入れ、盛り付けなどは職員が利用者様の目の前でそれぞれの食欲に見合った量を、盛り付けしている。終了後はお盆拭き、台拭きなど利用者様に出来ることを手伝っていただいている。	利用者の力量に応じてテーブル拭きや料理の味見など食事を楽しむ場面作りを工夫している。職員は弁当を持参し、利用者が食事をしている間はサポートを行い、休憩時間に食事をしている。	事業所の特性を踏まえて、利用者と職員と一緒に食事を楽しめる環境作りの前向きな検討を期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物を幾種類か用意して、少量ずつでも飲んでもらえるように工夫している。水分・食事摂取量ともに記録し、水分に関しては1週間での平均値を出し、不足への啓蒙を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は自分で磨いていただいている。毎回、舌苔のブラッシング・歯茎のマッサージを行い、口の中に残渣がないように数回ぶくぶくうがい促している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所間もない方でおむつ使用の方は排泄チェック表を準備し、誘導毎に記録しパターンを見つけるようにしている。定時誘導と不穏時の誘導・本人のパターンで、できるだけトイレでの排泄に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。昼間はトイレでの排泄を大切にしながら個々に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便日を必ず把握してから業務に就くようにしている。便秘傾向の方には早朝、牛乳やヨーグルトを飲んでいただいたり、水分補充や自力歩行での散歩介助で体を動かすようにしている。それでも出ない時は医師の処方の下剤を使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前と午後に分けてどちらでも入浴できるようにセットしている。浴槽に入ることが好きな方は二人介助で入ってもらっている。	利用者に声かけしながら本人が希望する日に入浴できるよう支援している。季節に応じて、ゆず湯や入浴剤を利用して楽しく入浴できるよう支援している。浴室の床面には防水畳マットを敷き、冷気を感じさせない設えとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間居室で休みたい方は誘導し、好きなように過ごしていただいている。午後から短時間ベットに横になられたり、夜は居眠りが始まったらそと声かけし、居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診で服薬開始・あるいは薬の変更などがあつたら、必ず全職員に伝達するため申し送り・日誌等に記載している。それらの伝達には確認印を押すことになっている。服薬時には二人の職員にて互いに確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事については嗜好調査を定期的に行っている生活の中でできること(洗濯もの干し・たみ・散歩・歌・おどり・清掃等)個人に合わせて一緒に楽しんだり手伝っていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に合わせて、短時間でも外の空気を吸いに散歩している。それ以外には行事予定を定め、季節ごとに花見やドライブに出かけたりしている。	気候や利用者の体調、気分に合わせて自家菜園に出かけたり、近隣の散歩、買い物など出来るだけ外気に触れる機会を作るよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の希望がある場合は、最低金額を所持管理していただいている。しかし現在は各担当職員が必要品の購入など行っていて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば職員が代わって電話し、本人に受話器を渡している。手紙が届くと本人にお渡ししたり、代わりに読んでさしあげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに居て季節感を味わうことができるように中庭や外ローカに花や木が植えてあり、その日の天候を知り・太陽の光を浴びることができる。ガラス越しに見える洗濯ものが風に揺れる風景は、生活感そのものである。	廊下やフロアは採光、室温、音、空気の流れ等利用者にとって居心地の良い場となるよう配慮されている。丁度お昼時、食堂兼居間には台所から食欲をそそる美味しそうな料理の匂いが流れ、生活感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様にはそれぞれ好きな場所・空間がほぼ決まって在り、自然の流れで集っておられる。入所間もない利用者様に対しては一番落ち着かれる席・場所探しを職員が日々の生活の中で観察している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒・クローゼット・布団類は施設のものであるが使いなれた道具を出来るだけ持ってきてくださるようお願いしている。写真・収納箱、飾り付けなど自由にいただいている。	居室には家族の写真やカレンダー、衣類ケース、ハンガーポール等が置かれている。ハンガーには好みの衣服が掛けられ、その人らしく安心して過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には家族の了解のもと、名札を掛け独自の飾りでそれと解るようにしている。ローカには危険なものをおかず、自力移動が可能となるように、レベルに応じてそれぞれの居室を定めている。		